

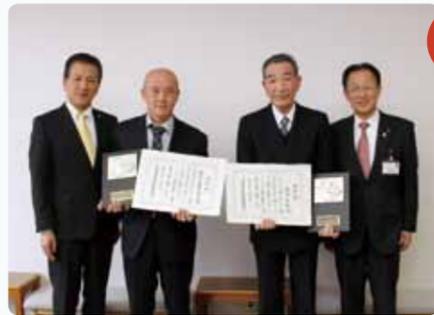


3月16日

明知鉄道で日本郵便の荷物を運びます

日本郵便株式会社の宅配貨物や郵便物などを、明知鉄道株式会社の列車を利用して運ぶ客貨混載事業が始まりました。

この日、運行開始を記念して行われた出発式で、初荷が積み込まれました。日本郵便が列車で客貨混載事業を行うのは、全国初のことです。明知鉄道の社長を務める小坂市長は「地方にとっては小さな一歩ですが、将来の日本にとっては大きな一歩になります」と話しました。日本郵便は今まで、恵那郵便局から明智郵便局まで1日3便、車両で宅配貨物などを運んでいました。その内、1便を明知鉄道の列車で運ぶことになります。



3月12日

飯地歌舞伎と岩村町獅子舞が県表彰

飯地五毛座歌舞伎保存会と、岩村町獅子舞保存会の柴田正樹さんが、本年度の県伝統文化継承功績者として表彰を受けました。これは、地域の中で受け継がれている無形民俗文化財の保存・伝承活動に貢献している個人・団体に贈られるものです。

この日、市役所で受賞報告会が行われました。飯地五毛座歌舞伎保存会の肥田敏雄会長は「歌舞伎の団体がたくさんある中で、受賞させていただいたのは名誉あること。これからも頑張りたい」と話しました。岩村町獅子舞保存会の柴田さんは「今後も若い世代に伝え続けていくことで、受賞の恩返しをしたい」と話しました。



3月3日

版画コンクール広重賞に小栗さん

市子ども版画コンクールの表彰式が中山道広重美術館で行われました。市内の子ども園や保育園、小中学校から、昨年より161点多い、2,871点の応募がありました。最高賞の広重賞を受賞したのは、小栗りほ佳さん（恵那北小学校6年）の『力強く走った100m走』。小栗さんは「小学校最後に広重賞を受賞することができて良かったです」と喜びを語りました。



▲小栗さんの作品



2月28日

郵便局長会が防災の本を寄付

一般社団法人東海地方郵便局長協会東美濃地区郵便局長会から、市内の全小中学校に、書籍『防災教室 災害食がわかる本』46冊の寄付がありました。

市役所で行われた目録贈呈式で、春田宣康会長は「小中学生がこの本を読んで防災意識を高め、家に帰って親などに話してくれば、大人の防災意識も高まると思います」と期待を込めました。

贈呈を受けた大畑教育長は「防災教育には重点を置いています。ぜひ役立てたいと思います」とお礼の言葉を述べました。

寄付された本は、市内の全小中学校に2冊ずつ配布されます。



3月17日

健脚競う大正村クロスカントリー

第35回日本大正村クロスカントリーが開催され、全国各地から詰め掛けたランナーが自慢の健脚を競いました。

今回の大会には、昨年を300人近く上回る2,193人がエントリー。恵那南高校をスタート、明智小学校をゴールとする10マイル（約16㎞）、6マイル（約9.6㎞）、2マイル（約3.2㎞）の3コースで競われました。時折雪が混じる冷たい雨の中、ランナーは大正浪漫漂々町並みや起伏の激しい林間コースを駆け抜けました。

沿道では地元の方が小旗を振りながら「がんばれ」と声を掛け、ランナーを応援しました。



3月12日

国連機関のデータベースに県内初登録

有限会社角野製作所（長島町）が開発した、らせん式ピコ水力発電装置「ピコピカ」が、国際連合工業開発機関（UNIDO）の環境技術データベースに、県内で初めて登録されました。国際連合工業開発機関は国連の専門機関の一つで、開発途上国や市場経済移行国で持続的な経済の発展を支援する機関。データベース登録により、製品の世界的なPRにつながる事が期待されます。

この日、小坂市長への報告に訪れた角野秀哉社長は「市内の企業から部品を調達できないか考えて作った製品。恵那から世界へ発信していきたい」と話しました。



3月3日

響き渡る35年ぶりの恵那第九

恵那文化センターでベートーベン作曲の交響曲第9番（第九）が、市民ら約170人によって披露されました。1984（昭和59）年の同センターこけら落としで披露された第九。改修工事前の同センター大ホール最後の公演として、35年ぶりに再演しようと「再びの恵那第九」と題して恵那第九実行委員会が主催しました。

特別編成されたオーケストラの演奏や、市少年少女合唱団、串原中学校生徒らが合唱した第1部に続き、第2部で第九を披露。約900人の聴衆で満席となった会場に、35年ぶりの歌声が響き渡り、終演と同時に拍手喝采が沸き起こりました。



3月2日

地域の拠点東野コミセンが装い新た

東野コミュニティセンター改修工事の完了を記念して、東野開発振興会による完成記念式典が行われました。

同センターは1978（昭和53）年の完成から40年が経過しており、屋根防水工事や外壁塗装、LED照明への交換、床の張替えなどが行われました。式典では、丸山文憲東野開発振興会会長が「先人の意思と尊い実践を受け継いで、集いや行事、文化活動、人づくりの学習の場として活用していきたいです。」とあいさつ。小坂市長は「これからも学びや触れ合い、娯楽、交流の場として使ってください」と述べました。